

二〇二三年度 桐朋女子中学校入学試験 (B入試)

筆記試験 (国語)

受 験 番 号

氏 名

【注意】

- 一、問題冊子が配られても、開いてはいけません。
- 二、問題冊子は1ページから17ページまであります。
- 三、「はじめてください」と言われたら、まず、問題冊子の表紙と解答用紙二枚に、それぞれ受験番号と氏名を書きなさい。
- 四、答えはすべて解答用紙に書きなさい。
- 五、問題冊子に書きこみをしてかまいません。
- 六、「やめてください」と言われたら、すぐに筆記用具をおき、解答用紙も問題冊子も表を上にして、机の上におきなさい。
- 七、試験時間は四五分間です。

一、次の①～⑩の——線部のカタカナを漢字に直しなさい。また、⑪～⑮の——線部の読みをひらがなで答えなさい。

- ① 親コウコウをする
- ② 切りカブにすわる
- ③ 元気のミナモト
- ④ 料理をきれいにモリつける
- ⑤ 水てきをタらす
- ⑥ 授業のフクシユウをする
- ⑦ 学者をココロザス
- ⑧ ショウボウシヨで働く
- ⑨ コップの持ち手が力ける
- ⑩ 大臣にニンメイする
- ⑪ 仁愛の心をもつ
- ⑫ 寸法をはかる
- ⑬ 女王陛下のドレス
- ⑭ 布を織る
- ⑮ サッカーの試合に敗れる

二、次の(1)・(2)の問いに答えなさい。ただし、同じ記号や漢字を二度以上答えてはいけません。

(1) 次の①～④の空らんにはまる色を後のア～オからそれぞれ選び、記号で答えなさい。

① はずかしくて□面する      ② 新□のまぶしい季節

③ 身の潔□を証明する      ④ □春時代の思い出

ア 白      イ 青      ウ 赤      エ 黄      オ 緑

(2) 次の①～④の空らんには「不・無・非・未」のいずれかを入れて、熟語を完成させなさい。

① □成年      ② □常識      ③ □可能      ④ □関係

三、次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。ただし、字数制限のある問いに答える場合、「、」や「。」等も一字と数えます。

『お母さん』と『ママ』はまったく別のものだと、宙は思っていた。『お母さん』というのは産んだひと。『ママ』というのは育てるひと。そういう分けかたなのだと思っていた。だからこのとき、とても戸惑っていた。

しらかば保育園年長クラスすいか組の子どもたちはみな、脚の短い長テーブルと椅子につき、真剣な顔でクレヨンを握っていた。いつもは賑々しい声ではちきれそうな教室が静まり返っている。五分ほど前、保育士の廣木が全員に画用紙を配り、「もうすぐ」母の日「という、お母さんにありがとうって伝える……、ママって言ったほうがいいかな？　そういう日があります。だからみなでお母さん、ママの似顔絵を描きましょう」と言ったのだ。子どもたちの描いた絵はデパートの母の日コーナーに飾られるのだという。

「宙ちゃん、どうしたの？」

宙が両隣の友達の手元を覗きこんでは首を傾げていると、それに気付いた廣木がやってきて隣にしゃがみこんだ。まだ何も描かれていない真っ白な画用紙を見て「好きに描いていいんだよー？」と笑いかける。

「どっち？」

宙が訊くと、廣木は意味が分からなかったのか、目を瞬かせる。宙はもう一度、「どっちをかくの？」と問うた。

「ママとお母さん、みんなどっちをかくの？」

廣木は一瞬「a」と口を開け、そしてはっとした。受け持ちの子どもたちの中に特殊な事情の家があったことを、すっかり忘れていた。

「え、えっと。両方描いたらどうかなあ」

廣木が言うと、宙の真正面に座っていた大崎マリーが「えー！」と大きな声を上げた。

「りようほうってなに。ひとりしかいないにきまつてるじゃない」

「ばかじゃん、と鼻の穴を膨らませて言うマリーは、宙が苦手になっている女の子だった。五月生まれの彼女は三月生まれの宙よりもひとまわり大きくて、性格はきっぱりはっきりとしていた。引っこみ思案であまり主張をしない宙はマリーにとって苛立つ存在らしく、しょっちゅう小言をぶつけられた。宙ちゃん、ちゃんとして。宙ちゃん、さくらんぼ組さんからやり直したほうがいいよ。

足が遅いのもごはんを食べるのが遅いのも、わざとじゃない。そう説明したこともあったけれど、その度にマリーは大きな手で頭をぶってきた。ちっちゃいくせに、生意気！ 加減を知らない平手打ちを受けるいつも目から光がばちばちと飛んで、そのあとに勝手に涙がびゅっと出てしまう。その結果、『泣き虫宙ちゃん』とますますばかにされるので、宙はマリーにあまり口ごたえしないようにしていた。けれど今回だけは、「ばかじゃないもん」と言い返した。

① わたしには、ふたりいるもん」

わたしには、育ててくれているママと産んでくれたお母さん、それぞれがいる。宙は一所懸命に説明し、それから誇らしげに胸を張った。いつもいつも、言い負かされてばかりではない。わたしが正しいときだって、あるのだ。

しかしマリーはまた「ばかじゃん」と言った。

「それなら、宙ちゃんをうんだお母さんのほうがホンモノってことでしょ？ あ、まってまって。じゃ

あいつも保育園に宙ちゃんをおむかえにきてるひとのことを『ママ』って呼んでるから、あっちはニセモノってことだ」

やっだあ、とマリリーが体をよじらせて笑い、それを聞いた周りの子どもたちが「えー、ニセモノのママなんているのお？」と騒ぎ出す。慌てた廣木が「そうじゃないのよ」と声を大きくしたけれど、いったん弾けた子どもたちをうまく収拾できない。

「おれがニセモノなんてやっつけてやるぜえ！」

クラスで一番乱暴者の二郎が、『宇宙警察ギャラクシーズ』のコスモレッドの決めポーズをとって叫ぶ。うちゅうの悪は、ひとりのこらずおしおきだ！

マリリーが宙を見てにやにやと笑う。そして、「宙ちゃん、ニセモノのママと一緒にいるんだ。かわいいそう」と言った。

『かわいそう』、その言葉の持つイメージが、分からなかった。ふっと視線を落とすと、クレヨンの箱の端に灰色があった。赤や黄色など、使われてどんどん小さくなってゆく仲間たちと違っていつまでも新品の顔をしているやつ。黒みたいにはっきりしていなくせに、塗ると絵が気に入らずんで見えるような、扱いつらい色。ああそうだ、『かわいそう』って灰色みたいな言葉だ。世界を、言われたひとを、どこかくすませてしまう言葉。そう思い至った途端、宙の中に炎が噴き上がるように怒りがわいた。手にしていた黒のクレヨンマリリーに投げつけ、「かわいそうじゃないもん」と怒鳴った。

「マリリーちゃんの、いじわるのばか！」

黒のクレヨンはマリリーの額に刺さるようにして当たり、黒い跡がつく。マリリーの隣の隆介がそれを見てふっと噴き出し、「園長先生みたい」と言った。しらかば保育園の園長は、額の中央に大きなホクロがあるのだ。

やり返されることも、笑われることも予想していなかったのだろう、顔を真っ赤にしたマリイが宙を睨む。宙はそれを睨み返し、「マリイちゃんなんか、だいきらい！」と再び怒鳴る。体の奥からこみ上げてくる炎を全部吐き出したような言葉に、いつもは強気なマリイが気圧されたように震えた。見合ったのち、マリイは天を仰いで泣き出した。

自分よりもあけすけで大きな泣きようを、肩で息をしながら見る。何だ、やり返せるじゃないかという驚きと、収まらない怒りが体中を渦巻いている。必死にかけっこした後のような心臓の高なりを感じながら、しかしその芯では少しだけ泣きそうだった。わたしは、可哀相なんだろうか。

(中略)

宙が保育園の卒園をおかえた時、「ママ」である風海(実際には叔母)の夫、康太のシンガポール転勤が決まり、叔母の一家は家族で移住することになった。そのことをきっかけに、宙は産みの親である花野に引き取られ生活することになった。

居間の引き戸を開けると、ダイニングテーブルの上に朝食が整っていた。ふかふかと湯気を上げるごはん、わかめと玉ねぎの味噌汁。美味しそうな焼き色のついた厚焼き卵と、足を跳ね上げたタコさんウィンナー。「b」と出汁の匂いが鼻を擦った。

「おはよう！ 今日はいいい天気だぞー」

キッチンでくるくると動いているひとは、振り返らなくても宙が来たことに気付いたようだった。あったかいうちに食べて食べて、と背中を向けたまま言う。

「おはよう、ございます。佐伯さん」

「あ、もう。iv 他人行儀たにんぎょうぎだなあ。やっちゃん、って呼んでって言ってんじやーん」

くると体ごと向き直って唇くちびるを尖とがらせるのは、金髪きんぱつを短く刈かった男性だ。初めて会ったときに佐伯恭弘さおひひろと紹介された。佐伯は、花野の中学のころからの友人だという。

Tシャツの袖そでから伸びた腕うでには模様のようにびっちりタトゥーが彫ほられ、両耳はたくさんのピアスに縁取ふちられている。見た目とは違って、その表情はいつも朗ほからかでやさしい。

「でも、大人のひととはきちんとした話し方をしなさいって、ママが」

「オレがいろいろ言ってるんだからいいんだよ。毎日顔を合わせるわけだしさ、仲良くしようや」

この家に越してきた日の、夕方のこと。花野に呼ばれて居間に行く佐伯が立っていた。厳いめしい見た目にびくりとして、思わず花野の背中に隠かくれた宙に、花野は『今日からあんたの食事の世話をしてくれるひとよ』と「c」と言った。

『あたし、料理がまったくできないのよ。だからこれからの食事は恭弘に頼たのむことにしたの』

料理ができない？ まったく？ 聞いてない！ それにしても、どうしてこんな怖こわそうなひとに頼むの!？ 驚おどろいて声も出せないでいる宙に、花野は『自己紹介、自分でできる?』と訊きいてきた。その顔はあまりにも平然としていて、驚おどろいている自分の方がおかしいのかと思ってしまう。だから宙は、花野の背中から顔だけ出して「d」と名乗った。

『川瀬、宙です』

佐伯がにっと笑いかけてきた。やさしそうに見えるけれど、でもやっぱりピアスやタトゥーが怖い。ぱっと再び花野の背に隠れると、花野が『あら、恭弘が怖いのか？ 見た目はちょっと怖いかもしれないけど、いい奴やつよ』と言う。

『宙、これからよろしく。オレ、こう見えてレストランで働く料理人なんだ。まずはオレの腕を見ても

らおうかな。好きな料理は？」

佐伯はいくつかの料理名をあげて、宙はおそるおそる『ポロネーゼ』と答えた。

作ってもらったポロネーゼは、お店で食べるもののように美味しかった。簡単にささっと作ったように見えたのに、こんなにも美味しくなるものなのだろうか。④ 宙には手品のように思えた。

(中略)

テーブルにつき、味噌汁を啜りながら宙は思う。仕事もしているのに、毎日ここに来るって大変なことだ。それを佐伯は苦にする様子もないし、そして花野と話するときには終始嬉しうれにしている。近所の中西さんちの犬が、飼い主の清子おばさんの前ではいつもぶんぶんしっぽを振るけれど、その様子とよく似ている。だからきつと、そういうことなのだろう。

「カノさんは今日も起きてこないのかなあ。佐伯さんが来てるのに、いつも無視してる……」

最初の数日だけ花野は起きだしてきたけれど、いまでは顔も出さない。仕事に追われてそれどころではないらしいが、挨拶もないのは酷い。

「いいんだよ。花野さんは仕事に一所懸命なのさ。あ、宙。今日の夕飯は鍋ごと冷蔵庫に入れておくからな。やっちゃん特製のビーフシチュー、めっちゃ美味いぞ」

あっためるときは弱火にして、ゆっくりかき混ぜるんだ。強火にしないようにな、焦げやすいから、と説明する佐伯の背中を、宙は眺める。佐伯はとてもいいひとだ。彼が来てくれるから、わたしは朝晩美味しいものをお腹いっぱい食べる事ができる。彼がいてよかった。

でも⑤ 佐伯に感謝すればするほど、哀しくもなった。

わたしを人任せにするくらいなら、どうしてカノさんはわたしを引き取ったのだろう。

(町田そのこ『宙ごはん』小学館)



問一、空らん【 a & d に入れるのに最も適切な語を次の中からそれぞれ選び、記号で答えなさい。ただし、同じ記号を二度以上答えてはいけません。

ア ぶんぶん      イ さらさら      ウ おずおず      エ のほほん  
オ ふわり      カ ぱちぱち      キ ぼかん

問二、線部 i 「鼻の穴を膨らませて」とは、どのような気持ちの表れと考えられますか。次の中から適切でないものを一つ選び、記号で答えなさい。

ア みんなに自分の考えをうったえたいという気持ち  
イ 答えがわからないことをかくしたいという気持ち  
ウ まちがい指摘してきし得意になっている気持ち  
エ 自分の考えていることは正しいという気持ち

問三、線部 ii 「收拾できない」 iii 「あげすけで」 iv 「他人行儀」について、ここでの意味として最も適切なものを、次の中からそれぞれ選び、記号で答えなさい。

ii 收拾しよくできない

ア ごまかすことができない      イ おだてることができない  
ウ かまかまってあげることができない      エ まとめることができない

iii あげあげすけで

ア 大げさで      イ つつみかくさず      ウ 勢いきいよく      エ かしこまって

iv 他人行儀

ア 礼儀正しいふるまい      イ 身勝手なふるまい  
ウ よそよそしいふるまい      エ なれなれしいふるまい

問い四、——線部①「わたしには、ふたりいるもん」とありますが、この時の気持ちを説明した次の文の空らんにあてはまる言葉を、本文中から指定された字数でぬき出して答えなさい。

わたしは【Ⅰ（三字）】ことを言っているという【Ⅱ（四字）】な気持ち。

問い五、——線部②「驚き」とありますが、このとき宙はなぜ驚いているのですか。宙のこれまでの様子をおまえ、文中の言葉を用いて四十五字以内で説明しなさい。

問い六、——線部③「わたしは、可哀相なんだろうか」とありますが、このときの宙の気持ちとして最も適切なものを次の中から選び、記号で答えなさい。

ア 可哀相ではないと言い切れる自信を持ち始めている。

イ 可哀相なのかもしれないという不安を感じ始めている。

ウ 可哀相という言葉を使ってみたいと思いはじめ始めている。

エ これまでずっと強がっていたということに気づき始めている。

問い七、——線部④「宙には手品のように思えた」について、宙は、だれが、何をしたことを、手品にたとえていますか。四十字以内で説明しなさい。

問い八、——線部⑤「佐伯には感謝すればするほど哀しくもなった」とありますが、この時の宙の気持ちについて、キリ子さんとトモ子さんが話しています。次の会話文の空らん【Ⅰ】ⅠⅡⅢⅣにあてはまる適切な表現を答えなさい。ただし、【Ⅰ】Ⅰ・Ⅱは、主語（だれが）を必ず入れること。

また【Ⅲ】Ⅳは本文中からぬき出すこと。

キリ子「感謝するのはもちろん【Ⅰ】【Ⅱ】ことに対してだと思おうよ。」

トモ子「哀しくもなったというのは、宙と佐伯さんの会話から考えると、【Ⅰ】【Ⅱ】ことに対してだと思おうな。」

キリ子「そうだね。でもそれだけではないかもしれないね。前半の保育園時代の最後の文で、宙が『わたしは、可哀そうなんだろうか』と思っていて、そこからつながっている気持ちなのではないかなあ。花野さんが自分を引き取って置いて、『Ⅲ』ということに對しても哀しんでいると思う。あの時マリーに「『Ⅳ』」って言い返した宙であれば、よけいに哀しかったと思うよ。」

問九、本文の後、宙は、佐伯の実家のレストランで、パンケーキの作り方を教えてもらいます。その場面である次の文章を読み、12ページにある「佐伯さんのパンケーキレシピ」を完成させましょう。空らん≪ ≫ I〜IVに当てはまる文や言葉を、指定された字数で答えなさい。

「まずは、粉を混ぜてふるうところからな。これをしないと、粉がダマになって、出来上がりが不味くなるんだ。ほれ、やってみ」

大きなストレーナーに小麦粉とベーキングパウダー、ほんの少しの塩を足したものを入れ、ボウルの上でふるう。朝日を受けて粉が煌めく。雪みたい、と宙が呟くと佐伯は「うまいうまい」と褒める。

「次は、卵を割る。白身と黄身を別々にしたいんだけど、宙にできるかなあ」

(中略)

新しい卵を渡されて、額く。みつつめの卵で、ようやくうまく分けることができた。誇らしい気持ちで佐伯を見上げると「飲みこみ早いな」と笑いかけられる。

「よし、もう一個やってみな。お、やるじゃん。ではここからは、やっちゃんがいいところ見せるからな」

佐伯が言い、白身の入ったボウルを抱える。泡立て器を持った佐伯は、素早く手を動かし始めた。半透明だった白身が空気を含み、だんだんと色を確認かなものにして膨れていく。

「わ、わ、わ、やっちゃんすごい。手品みたい」

「メレンゲっていうのを作るんだ。ホットケーキのふわふわの秘訣ひけつだな。宙、その砂糖をこの中に入れる。あ、一気にじゃないぞ。そうだな、四回に分けるか」

「わ、わかった」

砂糖を足してかき混ぜ、を繰り返しているうちに、自身はきめの細かい泡の塊かたまりになった。ふわふわしたそれは、木べらで掬すくうともたもと塊すべで滑り落ちる。

「ここからはまた、宙がやってみな。次は、黄身とさっきふるった粉、牛乳を混ぜるんだ。お、宙うまいじゃん。じゃあそのまま、さっきのメレンゲと混ぜてみよう。せっかく作った泡を壊こわさないように、素早く、やさしくだぞ。おっと、ここでバニラエッセンス入れとかねえと。忘れてた」

(中略)

「よし、焼くぞ。ちょっと難しいから、まずは見てな」

重量感のある鉄のフライパンが、コンロにかけられる。佐伯が温まってきたそれに油を薄く引いて、それから一度フライパンを濡れ布巾ぬれふきんの上に置いた。じゅう、と音がして、「こうして温度の調節してんのと佐伯が説明する。

再び火にかけたフライパンに、十分に泡を保った生地を落とす。

(中略)

美味しくなあれ、って言うんだぞ。佐伯が真面目な顔をして言い、宙も頷く。美味しくなあれ、と宙が口にすると同時に、佐伯はほんの少しだけ、鍋肌なべはだに湯を滑らせた。ふわっと甘い湯気が立つ。わあ、と宙が声を上げると、「そして、蒸むします」とフライパンに蓋ふたをした佐伯が宙の頭を撫なでた。

「宙のおまじないのお陰かげで、絶対美味しいもんができるぞ」

レシピは、次のページ。

★佐伯さんのパンケーキレシピ★

- 1、小麦粉とベーキングパウダーと塩を混ぜた  
《Ⅰ（5～10字）》。
- 2、卵を割る。白身と黄身を別々にする。
- 3、別々にしたうちの  
《Ⅱ（5～10字）》。
- 4、砂糖を足してかき混ぜる。  
2～4で《Ⅲ（4字）》が完成する。
- 5、黄身と粉と牛乳を混ぜる。
- 6、5でできたものと、《Ⅲ》を混ぜる。
- 7、バニラエッセンスを入れる。  
1～7で生地が完成する。
- 8、フライパンに油を薄くひく。  
→温度調節のため濡れ布巾の上に移す。
- 9、再度、フライパンを火にかけ、生地を落とす。
- 10、《Ⅳ（5～10字）》とおまじないをかけ、  
鍋肌にお湯を滑らせる。

★美味しいパンケーキの完成！★

四、次の文章は、『大絶滅は、また起きるのか?』という本の一節です。この本は、序章と六つの章からできており、本文は序章の一部です。本文を読んで、後の問いに答えなさい。ただし、字数制限のある問いに答える場合、「、」や「。」等も一字と数えます。

変化した環境かんきやうに適応できずに絶滅したり、他の生きものとの生息地や食料の奪うばい合いに負けたりして、たくさんたくさんの生きものたちがこの地球から姿を消していきました。すべての命に終わりがあのように、すべての生物種にも終わりがあのです。

このように、自然現象であるはずの絶滅が、なぜいま問題になっているのでしょうか？  
(中略)

いま、絶滅が問題になっているのは、以下のように大きく①③つの理由があります。

1つ目の理由は、生命の歴史という大きなスケールで見ても、現在の絶滅率\*(単位時間あたりに絶滅する生物の種数)が異常に高いことです。2015年に発表された論文によると、現在の脊椎動物せきついどうぶつ(背骨のある動物。哺乳類ほにゅうるい、鳥類、爬虫類はちゆうるい、両生類りやうせいるい、魚類)の絶滅率はひかえ目に見積もっても、通常期の100倍に達すると報告されています。異常な速さで生きものが絶滅していつているのです。

先に「生命の歴史は絶滅と誕生のくり返し」と書きましたが、正確には、種の絶滅と新たな種の誕生は常に起こっています。(中略)生物種が減る時期と、その逆の生物種が増える時期がくり返されてきた、ということですから(3章参照)。現在は、絶滅率が種分化率\*を大きく上回っています。その結果、生命の歴史しじにみる勢いで、生きものたちがいなくなっているのです。

イメージとしては、大きな台所のシンクを想像してください。その大きなシンクにたまる水の量が生きものの種数です。シンクの底に小さな穴が開いていて、そこから流れ出る水の量が絶滅する生きもの

の数。そして、水道からシンクに流れこむ水の量が誕生する生きものの種数だと考えましょう。

普段は水がチョロチョロ流れ出て（**X**して）、新しい水がチョロチョロ流れこみ（**Y**して）、シンクにたまる水の量（地球上の生きものの総種数）のバランスは保たれています。流れこむ水の量は変わらないのにドバツと水が流れ出て、シンクに残る水量が短時間で極端に少なくなる状態が、急激に②生きものが減る状態です。現在、シンクの底には過去にないほどの大きな穴が開いてしまい、穴の大きさは拡大し続けています。そこからの水の流出が止まらない状態なのです。

「a」、誰がそんな大きな穴を開けてしまったのでしょうか？ それは、私たち人間です。絶滅がさわがれている2つ目の理由は、現在の異常に高い絶滅率が、1つの生物種11ヒト、によって引き起こされているからです。

生命の歴史において、絶滅率が種分化率を大幅に上回るべきことは何度もありました。それを大絶滅（または大量絶滅）といいます。なかでもきわだって生きものが減少した過去5度の大絶滅は、ビッグフアイブ（5大絶滅）と呼ばれています（中略）。

けれども、1種類の生物が他の生物の大絶滅の原因となるのは、科学の知る限り40億年の生命の歴史上、今回が初めてのことです。地球上に1000億から6000億種類も生まれてきた生きもののうち、たった1種類のヒトという生きもの。それが大絶滅を引き起こそうとしているのです（中略）。

③ かつて、ヒトの他にも、たくさん増えて、いわゆる「成功」を収めた生物種もいたでしょう。そういう種であっても、いずれは食料となる生きものが少なくなったり、捕食者に食べられたり、生存競争が激化したり、また高密度で生存していたために伝染病が広がりやすくなったりして、他の生きものの大絶滅を引き起こす前に、その生物種の数に環境収容力（環境が維持できる生物の個体数の上限）に収まるように制御されてきました。

たとえるならば、それぞれの生きものの種あに与えられた容器があつて、容器のサイズは決まっています。これを「環境容器」と名づけましょう。ある種の生きものがどんどん数を増やしてゆくと、環境容器はどんどん満ちてゆきます。最初はすごい勢いで満ちていきますが、いっばいに近づくとき、だんだんゆっくり満ちるようになります。環境容器がいっばいになると、それ以上増えることができません。この最大量を、環境収容力というのです（実際の環境収容力は、周りの環境要因によってそのサイズがある程度変動します）。

〔 b 〕人間は、農業、漁業、工業、医療いりょう、化石燃料の使用、危険な生きものの排除はいじょ、居住環境の拡大と改善などを徹底的てつていに行い、元来の環境収容力を超こえて増え続けました。〔 c 〕、人間は与えられた環境容器のサイズを無理にどんどん大きくしていったと考えることができます。容器のサイズを大きくするには、容器の材料を無理やり調達したり、他の生きものに与えられた環境容器を取り上げたりして、自分たちのものにする必要があります。その結果、乱獲らんかく、生息地の破壊はかい、環境汚染おせん、地球温暖化などを引き起こし、多くの生きものを絶滅に追いこんでしまっているのです（4章参照）。

（中略）

そしていま、絶滅が問題視されている最後（3つ目）の理由は、人間が本来の環境収容力を超えて増え続けた結果、とうとうそのツケが人間にも回おってきているからです。④ 自然環境を操作し続けて人間自身の環境収容力の上限を押し上げてきたのが、これ以上は環境容器を大きくすることはできない、というところまでできてしまったわけです。

国連は「食料問題」を地球規模の問題の1つとして取り上げています。それによると、かつては増え続ける人口に必要なだけの食料を供給できていました。それが2004年頃から需要じゅようが供給を上回り、飢えうに苦しむ人々の数が増加し始めました。2018年には、その数が推定8億2000万人にまで増



えました。2018年の地球の人口が約76億人ですから、9〜10人に1人が飢えて苦しむ時代になったのです。これ以上大きくなれない、満杯まんばいになった環境容器。そこからこぼれ落ちる人が増えてきている、ということですよ。

【d】、環境容器のサイズを無理やり大きくし続けたために、地球温暖化、環境汚染、水不足などの環境問題も深刻化しています。生命の歴史上まれにみるスピードで生きものが絶滅している世界は、人間が生きていくうえでも良い世界とはいえないのです（5章参照）。

（高橋瑞樹『大絶滅は、また起きるのか？』岩波ジュニア新書）

\*絶滅率・種分化率——「種分化」とは、ある種から別の種が生まれること。一定の時間に絶滅する生物の種数が「絶滅率」で、一定の時間に新たに誕生する生物の種数が「種分化率」。

問い一、空らん【 a d に入れるのに最も適切な語句を次の中からそれぞれ選び、記号で答えなさい。ただし、同じ記号を二度以上答えてはいけません。

ア では イ また ウ なぜならば エ ところが オ つまり

問い二、——線部①「3つの理由」とありますが、その3つとは何ですか。3つとも本文中の言葉を用いて、解答らんに合うように答えなさい。

問い三、空らん  X・Yに入れるのに適切な漢字二字の言葉をそれぞれ本文中からぬき出して答えなさい。

問い四、——線部②「生きものが減る」とありますが、その具体例として最も適切なものを、次の中か

ら選り、記号で答えなさい。

ア 海洋生物種の96%・陸上生物種の70%が絶滅し、残った生物種は半数以下になった。

イ 特別天然記念物のオオサンショウウオの個体数がそれまでの個体数の90%減少した。

ウ 現在も絶滅危惧種ぜつめつきぐしゆといわれているジャイアントパンダの個体数が減り続けた。

エ 日本において、外来種のタンポポが増加し、在来種のタンポポが減少した。

問い五、——線部③「かつて、ヒトの他にも、たくさん増えて、いわゆる「成功」を収めた生物種もいた

でしよう」とありますが、かつて「成功」を収めたヒト以外の種は、どのような点がヒトと違いましたか。本文中の言葉を用いて五十字以内で答えなさい。

問い六、——線部④「自然環境を操作し続けて人間自身の環境収容力の上限を押し上げてきたのが、これ以上は環境容器を大きくすることはできない、ということところまでできてしまったわけです」について、以下の問いに答えなさい。

(1)「自然環境を操作」する具体例として筆者が挙げている部分を、本文中からぬき出して答えなさい。

(2)筆者が「これ以上は環境容器を大きくすることはできない、ということところまでできてしまった」と判断するのは、現在、人間を取りまく状況じやうきやうがどのようなようになっていると考えるからでしょうか。本文中の言葉を用いて百字以内で答えなさい。



